

『季節の宅配便』

日本食の主演 “神聖なるお米”

今回は日本人の主食、“お米”についての第1弾。
毎日食べているお米、どのように育てているのでしょうか。



5月初旬

種もみ

5月初旬、育苗箱と呼ばれる箱に種もみをまきます。



5月中旬

種もみをまいてから2週間、イネの苗が育ってきました。まるで緑のじゅうたんのように見えます。



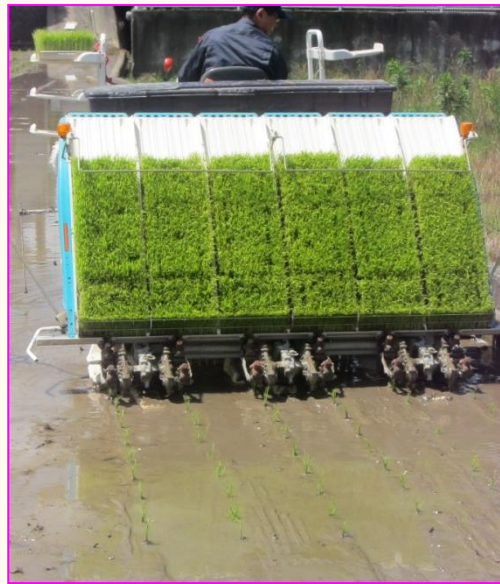
5月下旬

5月下旬頃、水もれがないように泥を練り、水を張った田んぼ。この作業を“代かき(しろかき)”といいます。



5月下旬～6月はじめ

田植え機によって、田植え中。なんとこの田植え機1台で6人分の働き！昔は、ひとつずつ手植えだったから、とても時間がかかったんですよ。



6月下旬

田植え2週間後の田んぼ。ここから2ヵ月半の間、イネを育てます。米の花言葉は“神聖”です。“イネ”の名の由来には命根(いのちね)や息根(いきね)があり“米”の語源は神聖なものや生命力が“こめ”られているものだと伝えられています。

生石農場で野生カモシカ親子に出会ったよ～



仲良くお散歩中。また、会えるといいな～

ログハウスがある自然あふれる農場で
小中学校の遠足・課外授業
研究室ゼミ旅行・研修会をしませんか。

◆お問い合わせ◆

近畿大学附属農場
〒643-0004

和歌山県有田郡湯浅町湯浅2355-2

TEL:(0737)62-2953 FAX:(0737)62-5629